

### [専門分野]

グループワーク、精神保健福祉、ソーシャルワーク

### [主要担当科目]

(学部) ソーシャルワーク論Ⅰ、ソーシャルワーク論Ⅲ、精神保健福祉の理論と相談援助の展開  
(大学院) 社会的弱者の自立支援研究、社会福祉学特殊研究 (ソーシャルワーク研究系)

### [研究テーマ]

ソーシャルワークと権利擁護、対人援助職のトレーニングとツール開発

### [略歴]

大阪大学卒(学士)、カリフォルニア大学ロサンゼルス校(UCLA)(社会福祉学修士)、日本社会事業大学大学院博士後期課程修了(社会福祉学博士)。社会福祉士。

日本の社会福祉の現場に適した臨床ソーシャルワークや権利擁護のあり方を研究・実践中。  
自殺危機初期介入スキル(専用HP)、IMR(リカバリーと病気の自己管理)研究(専用HP)、地域福祉コーディネーター、日常生活自立支援事業、認知症の人の家族支援等、対人援助に関する研究及び研修の提供。

### [主要研究実績]

- ①発行または発表の年月
- ②著書・論文等の名称 ③単著・共著の別 ④発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称
- ⑤編者・著者名(共著の場合のみ記入) ⑥該当頁数

### 【著書】

2013年6月

『市民後見人養成講座 第2巻 市民後見人の基礎知識』 共著 民事法研究会

2013年6月

『自殺危機にある人への初期介入の実際—自殺予防の「ゲートキーパー」のスキルと養成』 編著  
明石書店

2013年6月

『ソーシャルワーク辞典』 共著 日本ソーシャルワーク学会編 川島書店 分担執筆部分:「自殺総合対策基本法」87頁; 「パニック障害」179頁

2014年

『社会福祉学事典』 共著 日本社会福祉学会事典編集委員会編 丸善 (アセスメントとプランニング、福祉相談機関における福祉人材の項担当)

2014年1月

『福祉サービスの基礎知識』 共著 自由国民社 「成年後見制度と日常生活自立支援事業・認知症高齢者等の権利擁護」、316頁～317頁

2014年2月

『新・精神保健福祉士養成講座4 精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅰ(第2版)』 共著 日本精神保健福祉士養成校協会編集 中央法規出版 分担執筆部分 第5章3「集団精神療法」194頁～200頁

2014年3月

『2014年(改訂第5版)社会福祉学習双書 第8巻 地域福祉の理論と方法』 共著 社会福祉学習双書編集委員会編著 全国社会福祉協議会 分担執筆部分; 第9章第2節「日常生活自立支援事業」、244頁～255頁

2015年2月

『社会福祉士 相談援助演習 (第2版)』 共著 日本社会福祉士養成校協会編、中央法規出版、分担執筆部分: 第3章 演習4「地域における権利擁護活動に関する相談援助演習」、pp154-157、第6章演習41「障害者(精神障害)とその家族への相談援助演習」、pp344-349.

2015年3月

『新・社会福祉士養成講座6 相談援助の基盤と専門職 (第3版)』 編著 社会福祉士養成講座編集委員会編、中央法規出版、 分担執筆部分: 第1章第2節「現代社会と地域生活」、第2章「相談援助の定義と構成要素」、第5章「相談援助の理念I」、第11章第2節「総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能の展開」「予防機能」、「多問題家族」 pp8-22、pp23-49、pp93-120、pp221-228、pp250-259

2015年3月

『2015年(改訂第6版)社会福祉学習双書 第8巻 地域福祉の理論と方法』 共著 社会福祉学習双書編集委員会編、全国社会福祉協議会、分担執筆部分; 第4章第5節3「日常生活自立支援事業」、pp250-261

2015年6月

『IMR 入門 疾病管理とリハビリ』 共著 大島巖・加藤大慈監修、コンボ(地域精神保健福祉機構)、「第3章 IMR の実践とその効果について(3) 地域活動支援センターでの効果」 pp75-79、「第4章 実践に向けて(1) グループで行うときの留意点(グループ・ファシリテーションのポイント)」 pp82-88

2016年

『社会福祉学習双書 第8巻 地域福祉の理論と方法』 共著

2016年

『精神保健福祉援助演習(基礎・専門)』中央法規出版 共著

2016年9月

『市民後見人養成講座 第2巻 一人後見人の基礎知識— 第2版』 共著 民事法研究会、分担執筆部分: 第4章「対人援助の基礎」 pp259-300.

2016年11月

『IMR の実践 一人ひとりのリハビリのために』大島巖・加藤大慈監修、コンボ(地域精神保健福祉機構) 執筆協力 「第4章2、地域活動支援センターでの実践、自分の言葉で自分のことを話す大切さ」 pp92-100.

2017年2月

『事例で学ぶ認知症の人の家族支援 —認知行動療法を取り入れた支援プログラムの展開—』、編著、中央法規出版、福島喜代子・結城千晶

2017年3月

『2017年 社会福祉学習双書 第8巻 地域福祉の理論と方法』、共著、全国社会福祉協議会、分担執筆部分; 第4章第5節3「日常生活自立支援事業」 pp256-267

2018年3月

『2018年(改訂第9版)社会福祉学習双書 第8巻 地域福祉の理論と方法』 社会福祉学習双書編集委員会 編著 全国社会福祉協議会 分担執筆部分; 第4章第5節3「日常生活自立支援事業」 pp261-272

## 【論文】

2014年1月

「自殺危機初期介入の基礎知識（上）自殺の現状とゲートキーパーの必要性」 単著 『週間教育資料』  
連載 「管理職必携 安心安全の新常識」1281号 24-25 日本教育新聞社

2014年1月

「自殺危機初期介入の基礎知識（下）自殺危機にある生徒への初期介入と教職員の役割」 単著 『週間教育資料』連載「管理職必携 安心安全の新常識」1281号 24-25 日本教育新聞社

2014年

「＜ソーシャルワーク最前線＞地域を基盤としたソーシャルワーク探訪 ―山本繁樹さん― 聞き手：福島喜代子」『ソーシャルワーク研究』第40号第1巻 37-42

2014年4月

「ジェネラリスト・ソーシャルワーク教育の今後―海外の研究動向から示唆されるもの」 単著 『ソーシャルワーク研究』40(1) 36-45.

2014年5月

「福祉相談機関における福祉人材」 単著 『社会福祉学事典』所収 日本社会福祉学会事典編集委員会編、丸善 736-737.

2014年5月

「アセスメントとプランニング」 単著 『社会福祉学事典』所収 日本社会福祉学会事典編集委員会編、丸善 186-189.

2014年10月

「自殺対応―自殺予防とソーシャルワークの関与」 単著 『社会福祉研究フロンティア』（岩崎晋也、岩間伸之、原田正樹編集）所収 有斐閣 108-111.

2014年11月

「婦人保護施設における伴走型支援-ライフステージごとの課題と母子統合への支援-」『ソーシャルワーク研究』40(3) 67-77. (共著：池田恭子・福島喜代子)

2015年10月

「＜ソーシャルワーク最前線＞暴力被害者の生活再建を支援する ―ステップハウス所長 松浦薫さん―（インタビュー。聞き手：福島喜代子）」 共著 『ソーシャルワーク研究』第41(3) 72-76

2015年10月

「80歳以上高齢者数1000万人の時代を迎えて」（巻頭言）、単著『ソーシャルワーク研究』第41(3) 1頁

2016年3月

「木原活信・引土絵土『自殺をケアすること―弱さへのまなざしから見えるもの』、(ミネルヴァ書房、2015年5月)、書評、単著、『社会福祉学』56(4) 146.

2016年3月

「地域包括支援センターのアウトリーチ支援を求めない高齢者への働きかけに関する研究―」 共著 『日本の地域福祉』第29 95-106. 池田繭子、福島喜代子

2017年3月

「地域包括支援センターの機能、現状と展望-サービス利用に拒否的な高齢者への支援に焦点をあてて-」『老年精神医学雑誌』28(3) 254-261.

2017年4月

＜ソーシャルワーク最前線＞ソーシャルワーカーの視点：大野圭介さんに聞く「就労継続支援B型事業所の運営」を通して」大野圭介 聞き手：福島喜代子『ソーシャルワーク研究』第43(1) 64-68.

2017年7月

“Current Implementation of and Opinions and Concerns Regarding Suicide Education for Social Work Undergraduate Students in Japan: A Cross-Sectional Study.” *Journal of Social Work Education*, 54, 79-93. 2018. Published online: 05 Jul 2017. <http://dx.doi.org/10.1080/10437797.2017.1314837>、共著、Manami Kodaka, Emi Hikitsuchi, Michiko Takai, Sumie Okada, Yasue Watanabe, Kiyoko Fukushima, Mitsuhiko Yamada, Masatoshi Inagaki, Tadashi Takeshima & Toshihiko Matsumoto. 査読あり

2017年8月

児童養護施設における子どもの成長—レジリエンスを分析枠組みとした事例研究—『ソーシャルワーク研究』43(1) pp48-59 共著 篠塚利部香、福島喜代子.

2017年8月

“Illness Management and Recovery program in community-based continuous employment support centers in Japan : Preliminary study on effects and feasibility.” *Japanese Journal of Social Welfare*, 57(5), 11-19, Published online: 25 August 2017、共著、Fukushima, K., Kodaka, M. & Suzuki, A.、査読あり

2017年10月

東京精神保健福祉士協会『研修ニーズと業務状況に関する調査～調査結果報告～』『東京PSW研究』26巻 pp25-42 共著 坂入竜治、宮井篤、田保圭一、大林美由紀、熊谷仁恵、坂本興一、櫻井真一、田中浩子、田中秀治、福島喜代子

2017年11月

地域における科学的根拠に基づく実践プログラムの認知度と実施意向、促進・阻害要因に関する研究—Illness Management and Recovery に焦点をあてて—『精神障害とリハビリテーション』21(2) 162-169 共著 福島喜代子、小高真美、鈴木あおい、査読あり

2017年11月

「ソーシャルワーカー養成課程における自殺予防教育の試み—新たに開発された教育プログラムの実施可能性と効果の予備的検討」『自殺予防と危機介入』、37(2) 25-34 小高真美、引土絵未、高井美智子、岡田澄恵、渡辺恭江、福島喜代子、稲垣正俊、山田光彦、竹島正、松本俊彦. 査読あり

2018年3月

「IMR（リカバリーと病気の自己管理）導入支援の促進要因と阻害要因—ノルウェーのIMR導入戦略に焦点をあてて—」『ルーテル学院研究紀要』51 15-40 共著 福島喜代子・小高真美・鈴木あおい

2018年3月

「ノルウェーにおける精神保健医療福祉システムとIMR（リカバリーと病気の自己管理）プログラムの実践」『ルーテル学院研究紀要』51 81-94 共著、福島喜代子・小高真美・鈴木あおい

## 【書評他】

2016年4月

（書評）「D.H.ヘプワース、R.H.ルーニー、G.D.ルーニー、K.S. ゴットフリート、J.ラーセン著、武田信子編著 『ダイレクト・ソーシャルワークハンドブック』（明石書店、2015年3月）：『ソーシャルワーク研究』41（4） 63-64

2016年10月

（巻頭言）「すべての人は、あるがままで輝いており、生きる価値がある」『ソーシャルワーク研究』42(3) 1頁

2018年2月

（巻頭言）「ソーシャルワーカーはなぜAI時代でもロボットや人工知能に代替されないか？」『ソーシャルワーク研究』43(4) 1頁

## 【学外研究費】

2015-2017 日本学術振興会 科学研究費補助金 基盤研究 (c)  
「精神障害者の退院促進・地域定着に資する新規プログラムの導入支援モデル研究」

2011-2013 年度 日本学術振興会 科学研究費補助金 基盤研究 (c)  
「IMR (リカバリーと病気の自己管理) 普及の促進及び評価研究」

2008-2010 年度 日本学術振興会 科学研究費補助金 基盤研究 (c)  
「精神障害者のリカバリー支援プログラム (IMR) の実践研究」

2004-2005 年度 日本学術振興会 科学研究費補助金 基盤研究 (c)  
「精神障害者地域生活支援センターのソーシャルワーク実践のあり方についての研究」

## 【学会発表等】

2013 年 11 月

「IMR (リカバリーと病気の自己管理プログラム) の評価研究」、精神障害者リハビリテーション学会、  
沖縄国際コンベンションセンター、ポスター発表 (研究代表者として発表、共同発表者は小高真美、  
鈴木あおい)

2013 年 11 月

「地域施設における IMR (リカバリーと病気の自己管理プログラム) の予備的な効果検討」、精神障害者リハビ  
リテーション学会、沖縄国際コンベンションセンター、ポスター発表、(小高真美、福島喜代子、鈴木あおい)

2014 年 9 月

「ソーシャルワーカー養成課程における自殺予防教育の取組み状況と実施要件に関する研究」日本自殺予防  
学会、口頭発表、(小高真美、高井美智子、引土絵未、岡田澄恵、渡辺恭江、福島喜代子、稲垣正俊、山田光  
彦、竹島正)

2014 年 11 月

「障害者支援施設における精神障害者のリカバリー支援— リカバリーと病気の自己管理 (IMR) プログラムの  
実践と効果検証 —」日本社会福祉学会、口頭発表、(福島喜代子、小高真美、鈴木あおい)

2014 年 11 月

「自殺の危機にあるクライアントの支援に備えたソーシャルワーク教育— その取組み状況と実施要件 —」日  
本社会福祉学会、ポスター発表、(小高 真美、引土 絵未、岡田 澄恵、渡辺 恭江、福島 喜代子)

2015 年 12 月

「IMR (リカバリーと病気の自己管理) の導入課程と導入支援 — ノルウェーの取組から学ぶ —」、精神障害  
者リハビリテーション学会、第 23 回高知大会、リカバリー・調査研究分科会 (研究代表者として発表、共同  
発表者は小高真美、鈴木あおい) 口頭発表

2016 年 5 月

“Feasibility and preliminary effectiveness of a new suicide education program for social work students in  
Japan” Manami Kodaka, Michiko Takai, Emi Hikitsuchi, Sumie Okada, Yasue Watanabe, Kiyoko  
Fukushima, Mitsuhiko Yamada, Masatoshi Inagaki, Tadashi Takeshima, Toshihiko Matsumoto, 7th  
Asia Pacific Regional Conference of the International Association for Suicide Prevention /40th Japanese  
Association for Suicide Prevention (JASP), Poster presentation,

2016 年 5 月

Chair for the Oral Session of “Bereavement”, 7th Asia Pacific Regional Conference of the International  
Association for Suicide Prevention at IASP 2016.

【講演・発表】-②【採択制・外部研究費】

2011-2013 年度

日本学術振興会 科学研究費補助金 基盤研究 (c) 「IMR (リカバリーと病気の自己管理プログラム) 普及の促進及び評価研究」

【講演・発表】-③【招待講演、研修】

2000 年～2014 年

日常生活支援事業の専門員、生活支援員研修、事例検討 (於：全国・都道府県・市の社会福祉協議会)

2001 年～2014 年

民生委員、心の相談員研修 (於：全国・都道府県・市の社会福祉協議会)

2004 年～2014 年

地域総合相談研修、地域福祉ファシリテーター研修とグループスーパービジョン (於：全国あるいは都県社会福祉協議会)

2006 年～2014 年

ケアマネジャー、地域包括支援センター研修 (於：県介護支援専門研修会、市基幹地域包括支援センター等)

2008 年～2014 年

ソーシャルワーク研修、ファミリーソーシャルワーク研修 (相談援助、ケース検討、ケース会議、チームアプローチ、記録、アセスメント、課題分析等) (於：全国社会福祉協議会、全国母子生活支援協議会、全国乳児院協議会等)

2013～2014 年

公務員、生活保護ケースワーカー研修 (面接技術等)、窓口職員(自殺予防対応研修)

2008 年～2014 年

自殺危機初期介入スキルワークショップ (於：都道府県、市、精神保健福祉センター、保健所、薬剤師会、教育委員会等)

2009 年～2014 年

専門職団体 (都道府県 PSW 協会、都道府県 MSW 協会、ケアマネジャー、薬剤師会等) 向け、記録の研修、アセスメントの研修、ケアカンファレンス研修等

2013 年～

市民後見人養成研修 (都道府県・指定都市)

2016 年 4 月

「集合研修方式スーパービジョン」 「認定社会福祉士認証・認定機構」 「認定社会福祉士に対して、上級スーパーバイザーとして、個別スーパービジョンの提供」

2016 年 6 月

「児童期のソーシャルワークの基礎」 北海道札幌市自立支援協議会子ども部会「子ども部会セミナー」

「自殺危機初期介入スキルワークショップ」 「リーダー養成研修」 各地 (保健所、精神保健福祉センター、都道府県、市町村等)

「対人援助の基本」 市民後見人養成講座 各地 社会福祉協議会等

「地域福祉コーディネーター養成研修」 東京都社会福祉協議会ほか

「IMR 研修」 各地 (障がい者福祉サービス事業所)

「総合相談研修」「アセスメント研修」各地（社会福祉協議会、社会福祉士等専門職団体等）

2016年11月

「北欧の精神保健福祉におけるIMRの実践」東京国際フォーラム

「多職種連携研修」各地（社会福祉協議会、社会福祉士等専門職団体等）

「生活支援員研修」各地（社会福祉協議会、社会福祉士等専門職団体等）

2017年6月

「ソーシャルワークにおける住民参加の効果とは-探索的な文献研究-」日本地域福祉学会、第31回愛媛大会、地域福祉の方法①分科会、口頭発表、単独発表。

2017年7月

「ソーシャルワーカーの「思考」に沿った記録の試み-SOAP方式に「I:支援内容」を加え「P」を「今後の計画」とした記録方式-」日本ソーシャルワーク学会大会、第34回札幌大会、口頭発表、単独発表。

2017年10月

「地域福祉コーディネーター(CSW)の「個別支援」以外の支援の多様性-「実地研修」記録から浮かび上がる支援・活動レベル、場面、対象の様相-」日本社会福祉学会、第65回秋季大会、方法・技術分科会、口頭発表、単独発表。

2017年

「自殺危機初期介入スキルワークショップ」「リーダー養成研修」各地（保健所、精神保健福祉センター、都道府県、市町村、専門職団体等）

「日常生活自立支援事業」研修、事例検討 各地 社会福祉協議会等

「地域福祉コーディネーター、コミュニティ・ソーシャルワーク研修」社会福祉協議会等

「IMR（リカバリーと病気の自己管理）研修」各地 障がい者福祉サービス事業所等

「総合相談研修」 各地（社会福祉協議会、専門職団体等）

「アセスメント研修」各地（精神保健福祉センター、専門職団体、社会福祉協議会等）

「多職種連携研修」各地（社会福祉協議会、専門職団体等）

「記録」各地（社会福祉協議会、社会福祉士等専門職団体等）

「グループワーク」各地（社会福祉協議会、社会福祉士等専門職団体等）

2017年12月

全国社会福祉協議会 日常生活自立支援事業「地方ケース検討会スーパーバイザー」

2018年2月

「集合同研修方式スーパービジョン」「認定社会福祉士認証・認定機構」「認定社会福祉士に対して、上級スーパーバイザーとして、個別スーパービジョンの提供」

「対人援助の基本」市民後見人養成講座 各地 社会福祉協議会等

【講演・発表等】-④【学術雑誌巻頭言】

2014年11月

「ソーシャルワークのグローバル定義の改訂」 単著 『ソーシャルワーク研究』40(3) 1頁

【講演・発表等】-⑤【報告】

2014年5月

「我が師を語る 前田ケイ先生 -グループワークの普及とソーシャルワーカーの養成-」 単著 『ソーシャルワーク研究』40(2) 164頁～167頁

## 【学会等および社会における主な活動】

『ソーシャルワーク研究』編集委員  
日本ソーシャルワーク学会査読委員  
日本社会福祉学会 査読委員  
認定社会福祉士認証・認定機構 上級スーパーバイザー  
東京都社会福祉協議会「地域福祉コーディネーター養成等検討委員会」委員  
小平市社会福祉協議会地域福祉コーディネーター・スーパーバイザー  
小金井市社会福祉協議会権利擁護センター 運営等審査会 委員長  
三鷹市社会福祉協議会 地域福祉活動計画推進評価委員会 委員長  
女性のためのサポートグループ運営  
グループワークのトレーニング、スーパーバイズ

## 【趣味・関心事】

「趣味」は庭いじり。「関心事」は子育て。